



国民・個人のための国会審議を

性差LGBTを認め、格差がない社会に



二月六日に発生したトルコ・シリア大地震という大災害によって被害を受けた皆様は心からお見舞い申し上げます。私たちが暮らす日本列島も地球の大地震地帯であり、耐用年数が過ぎた中古原発が全国各地に置かれています。今回の地震災害は他人ごとではありません。

国がここに来て急速な広がりを見せているというのに日本ではなぜ実現できないのでしょうか。

日本は明治時代以降敗戦まで家父長制の下に家族が統治されていました。天皇を頂点とし国家を統治するための単位として家が組み込まれていたのです。父権者はあらゆる権力を持ち、家族の異見はあり得ませんでした。敗戦を経て、人権を重んじなければと反省から「すべて国民は個人として尊重される」と明記した日本国憲法が制定されました。ここで重要なのは個人として生存する権利が明記されたことです。

また男女のジェンダーギャップも国際比較で考えればなりません。日本は146ヶ国中116位となっており女性の登用は各界で大きく立ち後れています。さらに非正規雇用の多数を占めているのも女性です。女性が自立して生活できる社会をつくるのが急務と言えます、労働組合が果たす役割は重要なのですが組織率の著しい低下は変わっていません。環境を改善するには多くの団体、個人が声をあげる必要があります。

いま国会で重要な法案が議論されています。「LGBT理解増進法」案です。性的少数者への理解を深めようという人権に関わる重要な法案です。先日、岸田首相は「同性婚は社会を壊す」と発言し、付度した秘書官が「隣に住んでも・・・」と言って更迭されました。岸田首相は「壊されてしまう社会」と言い、国民の理解度は調査によると年齢が高くなるほど低下しているように見えます。

私たちにできることは政治に関心を持つこと、このことは個人を大切にし、LGBTへの理解を深め、広げることに関わると思っています。

国際社会では権利を認める

とてきた家・家族観を払拭するのは難しいようで、先日は自民党議員の子息が立候補にあたり家系図を掲げ失笑されました。これが岸田首相の壊さ



今月の予定です

<コロナの感染状況で変更・中止することがあります。>



3月5日(日) 13:30～16:30

DVD視聴と「沖縄戦争孤児」

意見交換

南部梅郷公民館

南地域九条の会

3月9日(木) 16:00～17:00

9日行動

九条通信配布・ボードでアピール

梅郷駅 通路、西口階段下 野田・九条の会

3月11日(土) 13:30～16:00

野田・九条の会 ビデオを見て意見交換「台湾有事切迫論の壁に感ずるな2・16院内集会」

3月例会

中央公民館 講座室

野田・九条の会

3月19日(月) 13:30～15:30

ちょっと暖かな「おしゃべりカフェ」
社会や政治のことなど気軽に
おしゃべりしましょう。

梅郷のホール 和室

野田・九条の会

4月2日(日) 13:30～16:30

DVD視聴と意見交換 60年前のアメリカの実話「現在は?」
「グリーンブック」

南地域九条の会



二月の例会では「中国の民主主義とその実情」のビデオを見て、台湾問題を考えようと意見を交換し学習しました。

話題として

- ・今の中国は一党独裁で民主的ではないのでは
- ・岸田首相は軍備を拡大し本当に守れると思っているのか
- ・今の政治家は有事への覚悟があるのか
- ・政権は説明もなく国民に危機感を煽る発言が多い、メディアも同調し流している
- ・小学六年生が平和学習で「戦争の準備をしている気がする」と手紙を官邸に出した。広くアピールしたい
- ・九条を他人任せにしないこと
- ・自衛権を考える

など、活発な意見交換となりました。

3月11日の例会は、引き続き「台湾問題」で意見を交換します。日頃考えられていることを皆さんで話し合ひましょう。ぜひお出かけください。

戦争にならないよう努力をしなければ

■ ウクライナ侵攻で不安に

ロシアがウクライナに侵攻し一年になろうとしています。世界は驚き、日本でも世論調査をするとこんなことになっては怖い、守りを固めなければとの国民感情は6割を超えました。防衛費倍増、敵基地攻撃能力を持つは故安倍元首相の発言があり、そこにウクライナへの侵攻が発生、一気に不安が高まり岸田首相はこの機会とばかりに冷静な議論をすっ飛ばし防衛費財源の確保へ走りはじめました。しかも台湾を絡めて中国との危機を煽って、新たな紛争を自ら生じさせることになり不安をさらに増大させています。

□ 台湾を有事にさせない

国際社会においては台湾は中国の一部と考えています。台湾の大多数の人々は現状維持、つまり独立はせず自由で民主的ないまの暮らしが良いとの考えです。これを踏まえれば独立する動きさえ生じなければ有事は避けられるといえます。台湾は半導体で世界をリードする立場に揺るぎはなく、米中も頼りにするところであり中台間を有事にすることは国際社会に甚大な悪影響を及ぼすことになります。そこに岸田首相が有事を掲げ先制攻撃を可能とする防衛費倍増とは、あまりにも思慮を欠いた政策であるとしかれません。安倍氏が生前に約束した米国武器の多額購入を果たし、日米間の緊密をも維持するとの

政策は日本が新たな火種を作ることになります。

中国は香港と同様に台湾をいつかは併合しようとするでしょう。ですが武力で威嚇、行使することがないようにと中国に外交を展開することこそが日本の責務です。

□ 軍事費倍増は国民生活を減ぼす

岸田首相は軍事費倍増に異常な意欲を示していますが5年で43兆円を確保することは容易ではありません。一般予算と特別予算から捻出するとなれば国民生活は必ず犠牲になります。軍事増税となれば、既に世論の7割が反対の意志を示し、国債発行には国民の不安は相当強くなると予想されます。生活の基である賃金はこの25年全く上がっておらず、コロナと円安そして物価高、国民になんの希望と安心も与えられず、軍事費倍増のみとは国民生活を無視する無謀な政権としか言えません。私たちはずっと平和と豊かな生活を追求してきました。これらを実現できる政治にしなければと今強く思います。



ひと 平和を他人任せにしない

♪ 母はきました 今日も来た この岸壁に 今日も来た

「引き揚げ船が帰って来たのに、今度もあの子は帰らない」

戦地に行った一人息子の再会も叶わぬままに享年八一歳で亡くなった母の悲しみ、切なさを謳った「岸壁の母」は昭和29年から多くの人々が涙を流しながら歌い広がった。

戦争は女、子供を苦しめ、悲しませ、莫大な財力を失うもの、今のウクライナの現状がハッキリと現しています。

日本は惨めな敗戦を経て、憲法九条を掲げ平和憲法を守って平穏に暮らしてきました。

これからも憲法九条をどのように守るかを考えなくてはなりません。

現在の日本は一・集団的自衛権、二・緊急事態条項により憲法九条を無視して戦争を出来る国にするために憲法を変えようとしています。それを排除するには、野党を強力にして「平和を他人任せにしない」を掲げ、一と二を撤回させることではないかと思えます。

「外交は武力の後ろ盾が必要」と今の政権は叫んでいますが、武力では平和はつくれません。「戦争放棄」しか平和を作れません。マイナンバー制度が国民管理として動き出して、徴兵に繋がるかもしれません。皆さん自分の幸せは自分で決めるように、自分の国の平和も自分達で考えてみませんか。

中村政子